

武蔵野日記

(11月25日～12月22日)

発行人 社会福祉法人武蔵野
武蔵野市吉祥寺北町4-11-16
0422(54)7666

1月1日現在 職員総数 307名

地域社会の中にこそ

ジョブアシストいんくる施設長 鈴木 誠

昨年のお話で恐縮ですが、2017年の世相を表す「今年の漢字」は「北」でした。他に上位にランクインした漢字には「不」、「核」、「乱」、「変」、「暴」などが並び、なんとも殺伐とした感を抱いてしまいます。(財団法人日本漢字能力検定協会発表)

過去をさかのぼると、2011年の「絆」が目にとまります。「北」と比べると「絆」には未来への希望がうかがえるような気がします。この2011年は東日本大震災があった年です。その人知を超えた稀有な災害を前に世の中の空気が変わり、多くの人の間で人と人のつながり、支え合いの大切さが見直されることとなりました。6年が経過した今でもその流れは続き、社会の手触りを少しぬくもりのあるものになっているように感じられます。

近年、我が国では少子高齢化による労働力人口の減少や非正規雇用の増加に見られる雇用構造の変化など社会経済の情勢が大きく変わってきています。晩婚化、未婚者の増加、単身世帯の増加、なども指摘されています。そうした変化により、「地縁」「血縁」「職縁(社縁)」のすべてが希薄化していく中、「無縁社会」という言葉が2010年にNHKのドキュメンタリー番組の中で用いられ、この年の流行語大賞に選ばれました。今では、無縁社会のもたらす問題は高齢者の孤立だけでなく、相対的に若い層にも及び、格差の拡大、貧困という大きな社会問題として広く認識されるに至りました。生活困窮者自立支援法が施行され、いんくるが「生活困窮者就労準備支援」を始めたのが2016年でした。

こうした変化は地域活動にも大きな影を投げかけています。単身世帯の増加からくる「地域」への薄い共感。地域活動の担い手の固定化と高齢化。そうした状況は活動を担う人たちに大きな苦悩をもたらしています。

その一方で、その「地域」に対して、行政からは公的な役割を担う実行部隊としての働きが求められています。たとえば防災の取組みにおいては「共助」の名のもと、一時避難所の開設運営、要支援者への支援など大きな役割がふられています。そのことは地域活動に取り組む人たちの間に、大きな戸惑いのようなものを生じさせているように思います。

現在、地域活動を中心になって支えているのは、自営業の方、もしくは企業をリタイヤした方が多いのですが、その実様々な活動を熱心にされている方が数多くいます。地域福祉の会、PTA活動、消防団活動、スポーツ少年団の指導、保護司、など。皆さんがさまざまなバックボーンをもって地域活動に参加しているように、障害者総合センターも福祉事業者というバックボーンをもって大野田地域防災の会の一員として参加しています。地域の社会的課題は様々で、障害者支援の視点から見る社会的課題とはすぐにつながるわけではないかもしれません。まずは、我々は地域のために何ができるかを考え、地域の一員としての責任を果たすべく求められる役割を精いっぱい努めましょう。そして地域課題の解決が法人の大きな役割であると我々自身が認識することが重要です。その上で、法人の使命を地域の課題に位置付ける取組みが必要です。両者は表裏一体の取組みであり、地域共生社会への第一歩はそんなところから始まります。

新年に当たり、あらためて社会福祉法人武蔵野の「基本理念」と「経営基本原則」の冒頭の文章をかみしめておきたいと思います。

「地域包括ケアシステム」の推進について

～医療と介護の連携強化～

桜堤ケアハウス在宅介護・地域包括支援センター
センター長 中村博子

私が働いている在宅介護・地域包括支援センターでは、多種多様な業務があります。その業務の中で、“地域包括ケアシステム構築の推進”という大切な業務があります。この地域包括ケアシステムについて、地域における医療及び介護の総合的な確保の促進に関する法律の第2条に“地域の実情に応じて、高齢者が可能な限り、住み慣れた地域でその有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう、医療・介護・介護予防・住まい及び自立した日常生活の支援が包括的に確保される体制をいう”と書かれています。

武蔵野市における地域包括ケアシステムは、介護保険条例や高齢者福祉総合条例による総合的な施策体系を基にいろいろな事業を、先駆的に展開しています。

そのいろいろな事業の一つに在宅医療・介護連携推進事業があります。

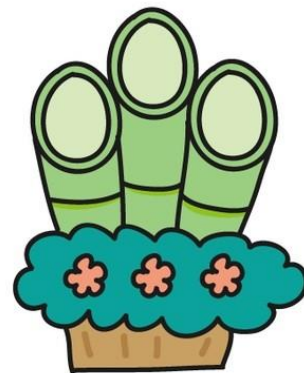
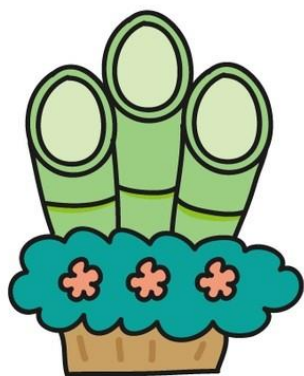
高齢者は何らかの疾患を有している場合が多く、かつ複数の疾患にかかりやすいため、医療と介護の両方を必要としている場合が多いです。医療と介護の両方を必要とする高齢者が、在宅で自分らしい生活を最期まで継続できるようにするために、医療と介護が一体的に提供できるよう武蔵野市では平成27年からこの事業に取り組んでいます。

私はこの事業が地域包括ケアシステムの中核になると考えています。なぜならば、昨年度は退院後のセルフケアマネジメントのモデル事業に、今年度は普及・啓発部会に参加をする中で、この事業について市民への周知が進めば、“医療と介護を受けながら地域で暮らす”という意識が高まると感じたからです。

昨年の4月に周知の一環で「病気になったらどうするの？介護が必要になったらどうするの？」というリーフレットが在宅医療・介護連携推進協議会から発行されました。今年度当初から地域に出向き、リーフレットの配布と共に内容の説明を行ってきましたが、その内容の中の“在宅医療”について意外とご存知ない市民の方が多いことに気づかされました。“在宅医療”とは通院ができなくなった時、入院ではなく、自宅等の生活の場でケアを含む診療を受けられることで、訪問診療（往診）を行う医師や、歯科医師、歯科衛生士、訪問看護師や保健師、訪問リハビリ、薬剤師、訪問介護（ヘルパー）、ケアマネジャー、在宅介護・地域包括支援センター職員、病院スタッフなど様々な医療・介護・福祉の専門職が連携し、在宅医療を必要とする方々をみんなで支えています。

次年度の制度改正では、入退院支援や関係機関の連携を強化していくことがあげられています。私たちが在宅介護・地域包括支援センターの職員は、個別相談を通して近隣や市内の病院とこれまで以上に連携をはかり、迅速に対応をしていかなければと考えています。

今後も職員が一丸となって、制度の狭間で困っておられる高齢者の方々の入退院時に対して、適切なサービスが届けられるよう、そして必要な社会資源（サービスなど）の創出ができるきっかけになるよう、寄り添った支援を続けていきたいと思えます。



12月8日(金)

避難場所は近隣のコンビニ

ご利用者が職員の誘導なしに避難ができるように、避難訓練の始めには毎回、ご利用者の皆さんに緊急時に危険を警備会社から伝えるボタンの使い方、火事や地震の時の避難先を職員から説明する時間を持つようにしています。ご利用者自身に自分の身を守る方法を覚えてもらう必要があります。

さて、今回の避難訓練から避難先を近くのコンビニに変更しました。店長をお願いをして避難場所とすることにご協力いただきました。日頃からご利用者が買い物に行くお店で店員の皆様にも親切にいただいています。職員が駆けつけるまでご利用者も安心して待てると思います。(曾根 恭子)

やはたハウス



12月11日(月)

こつこつ、ゆっくり

年末に向けて繁忙が続く作業場。「中々前に進まない」。利用者支援や作業納期など様々な都合の狭間で、余裕のない自分に気がつきます。

ふと充足感に包まれる瞬間。年度初め机に伏していた方が、真剣な表情で手を動かしていました。仕事に対する「純粋さ」や「力強さ」が見え、力を与えてくれました。

実際には安定した取り組みに困難さがあったり、はたらくことの認識が十分でなかったりする方も少なくありません。そんな中でも利用者の「力」を感じた時、支援者としてもう一步を踏み出せる気がしました。(飯森 裕真)

武蔵野福祉作業所



12月13日(水)

パンフレットをリニューアルしました。

りぶるが開所して4年目、開所当初と現在を照らし合わせ、パンフレットを改めました。これまで実践で積み重ねてきた事、そして、今後の展望を考えながら検討してきました。ここで見えてきた事は、事業の目的を果たすには、支援力を高め、より機能を向上させていく必要性でした。利用者が社会生活力を高める為の支援と、自立と自律の心と行動が伸びていくような支援や環境づくりが求められます。もちろん、りぶる単体のみで地域生活が支えられる訳ではありません。他の事業と協力、連携しながら、ご利用者の成長が安心の中で営まれるよう支援体制を確立するべく尽力したいと思います。(森谷 和徳)

ワークステージ りぶる



12月19日(火)

冬の早番勤務

勤務は朝6:15からですが、早番は1人勤務なので多少早めに皆出勤しています。ケアハウスに着いても辺りは真っ暗、空には月と星が輝いています。「おはようございます。」ゴミ捨てされている入居者の方にご挨拶。「寒いのにご苦労様」と笑顔で声をかけてくださいます。7:30の朝食提供までは自分との戦いです。ケアハウスは対面式での食事提供なので、皆さんいろいろ声掛けしてくださいます。「美味しかった!ご馳走様」の声を聞いた時、やっと私の心もホッカリ。いろいろな勤務形態で働いている職員のみなさん!まだまだ寒いですが心のホッカリを求めて今日も一日頑張りましょう。(吉川 百合子)

桜堤ケアハウス



12月22日(金)

クリスマス会

デイセンター山びこの余暇活動として、初めて全体でのクリスマス会が行われました。普段の活動とは違う雰囲気、皆さん期待感があふれている様子でした。夜にはグループOの利用者や職員が色々な楽器を担当して行なう、演奏会が開かれました。数か月前から練習を重ねてきた演奏は、皆さんの歌声とともに会場内に響きわたっていました。最後は参加者全員で山びこソングを歌い大盛り上がり。今年最後のイベントを皆さん笑顔で終えることができ、来年も良い年を迎えられそうです。(山本 耀里)

デイセンター山びこ



事務局より 1月の予定

- | | |
|------------------|-------------------|
| 4日(木) 施設長会議 | 24日(水) 安全運転講習会 |
| 9日(火) 職員昇任試験応募締切 | 25日(木) 第4回中央衛生委員会 |
| 16日(火) 誰でも相談室 | 26日(金) 自己評価表提出締切 |
| 20日(土) 職員昇任筆記試験 | 27日(土) 3年目研修 |

<編集後記>

新年、あけましておめでとうございます。
昨年は武蔵野日記へのご協力、ありがとうございました。
各事業所の取り組みやふとした日常、気付き等、おかげさまで素敵なお原稿が多い一年でした。
皆様、本年もどうぞ武蔵野日記をよろしくお願いたします。
デイセンター山びこ 笠原 匠充

